

平成22年4月26日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19730360
 研究課題名（和文） 福祉アクセシビリティに着目した地域生活支援方法と体制整備に関する研究
 研究課題名（英文） The study on support method and system for community life that paid attention to "accessibility to social welfare"
 研究代表者
 越智 あゆみ（OCHI AYUMI）
 県立広島大学・保健福祉学部・助教
 研究者番号：60445096

研究成果の概要（和文）：本研究では、様々な生活ニーズを抱えながら地域で暮らす人々が安定的に地域生活を維持するための要因として「福祉アクセシビリティ」に着目し、福祉アクセシビリティを高め維持するための支援方法と、その支援方法の安定的な継続を実現する体制整備の在り方を検討した。「福祉アクセシビリティ」概念について、支援者側から利用者に働きかけていく方向性も含む力動的な概念として捉えていく必要性を提示した上で、その実現要件となる専門職の労働環境の検討や、支援ツール作成に取り組んだ。

研究成果の概要(英文):In this study, I paid attention to "accessibility to social welfare". I considered that was the factors that the people who have various needs maintain community life stably. I discussed the support methods that raise accessibility, and the system maintenance to continue the support methods stably. I considered "the accessibility to social welfare" was the dynamic concept. I thought that we should include the directionality that worked on users into this concept. Based on this way of thinking, I examined the stress situation in the work of support workers and made support tools.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	0	900,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	300,000	2,200,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：福祉アクセシビリティ，ソーシャルワーク機能，生活ニーズ，地域生活支援，社会資源，精神障害者退院促進支援事業，自立支援員，支援体制整備

1. 研究開始当初の背景

「福祉アクセシビリティ」とは、「必要なサービスを利用できること」あるいは「サービスの利用のしやすさ」を示す概念である。具体的には、機関の配置、建物の構造、情報提供システム整備、窓口対応などが含まれると考えられている。地域の中で様々な生活ニーズを抱えながら生活している人々は、近くに社会資源が存在していてもそれを知らなかったり、使い方がわからなかったり、心理的抵抗感などから活用を諦めていたりする場合があります。機関の配置や建物の構造等をどれほど工夫しても当事者がアクセスしやすい社会資源になるとは限らない。当事者の「福祉アクセシビリティ」を高め維持するためには、ソーシャルワーク機能の発揮が不可欠な要件となる。

2004（平成16）年9月に出された「精神保健医療福祉の改革ビジョン」では、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が打ち出され、中でも約7万人の「受け入れ条件が整えば退院可能な人」の退院促進が重要な課題として位置付けられた。わが国では地域生活を支える社会資源整備が依然不十分な状況にあり、退院後の地域生活をどのように支援していくのか、その具体的な方法論とそれを支える体制整備の検討が喫緊の課題となっている。

平成15年度から国庫補助事業として始まった「精神障害者退院促進支援事業」では、その要の役割を担う人材として自立支援員を位置づけた。これまで各病院が行ってきた退院支援とは異なる自立支援員の機能の特徴として、(1) 医療機関外から病院に訪問して退院支援を行うこと、(2) 利用者を中心に退院後の生活のイメージづくりとその具体化を進めていくこと、が挙げられる。これらの自立支援員が果たす機能は、「福祉アクセシビリティ」を高め維持するものということができる。自立支援員の機能とその機能を支える体制について詳細に分析することで、地域生活支援に関する重要な示唆が得られると考え、本研究を計画した。

入所施設中心から地域生活中心への流れは、精神保健福祉領域に限らず、社会福祉領域全体に共通する動向である。本研究は、精神障害者退院促進支援事業を題材にしているが、精神障害者福祉領域のみではなく、ソーシャルワーク実践方法に関する研究として、社会福祉領域全体に貢献できるものと考えた。また、これまで環境面での条件整備に

関する概念として捉えられてきた「福祉アクセシビリティ」、ソーシャルワーク機能の鍵概念として位置づけている点は、本研究の独創性といえる。当事者の視点からとらえた「福祉アクセシビリティ」の構成要素を明らかにして、様々な生活ニーズを抱えながら地域で暮らす人々の「福祉アクセシビリティ」を高め維持する具体的な支援方法論および体制整備の必要性を提起することが本研究のねらいである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、様々な生活ニーズを抱えながら地域で暮らす人々が安定的に地域生活を維持するための要因として「福祉アクセシビリティ」（社会資源へのアクセスのしやすさ）に着目し、福祉アクセシビリティを高め維持するための支援方法と、その支援方法の安定的な継続を実現する体制整備の在り方を検討することである。

3. 研究の方法

(1) 「アクセシビリティ」概念、ソーシャルワーク、地域生活支援などに関する文献研究
「アクセシビリティ」概念、ソーシャルワーク、地域生活支援など本研究のキーワードについて、検索サイトなどを活用して広範に関係文献を収集し、文献レビューを行った。また、イギリス・シェフィールド市での調査では、一般市民向けのパンフレットを含む多数の資料を収集し、日本の資料と比較しながら検討した。

(2) 自立支援員および事業管理者への聞き取り調査

自立支援員への聞き取り調査では、「福祉アクセシビリティ」および「ソーシャルワーク機能」という観点に着目して、事業利用者との関係構築のために留意している点、具体的な支援内容とその方法、活動を支える支援体制への希望、などを聞き取った。事業管理者への聞き取り調査では、当該事業を活用して安定的・継続的に退院促進支援を行うための留意点や、自立支援員への支援体制などについて聞き取りを行った。

(3) 相談支援従事者が役割を発揮するための支援体制に関する検討

「福祉アクセシビリティ」の確保において、実際に支援に取り組む支援者の労働環境は重要な要素となる。相談支援従事者のワークストレスに関する実態調査の結果を分析し、相談支援従事者が役割を発揮できるための

労働環境改善方策について検討した。

(4)「福祉アクセシビリティ」に配慮した『地域生活サポートブック』の発行

精神障害者の地域移行支援・地域生活支援に取り組む支援者を対象に、支援時に困ったことについて聞き取り調査を行った。その結果を踏まえ、支援者の協力を得て、地域生活に役立つ冊子づくりに取り組んだ。

4. 研究成果

(1)「アクセシビリティ」概念、ソーシャルワーク、地域生活支援などに関する文献研究

「人々がその環境と相互に影響し合う接点に介入する」というソーシャルワークの国際定義に従えば、人々と環境の間の「接点のあり方」はソーシャルワークの最も中核的な焦点となる。「アクセシビリティ」は、人々と環境の間の「接点のあり方」を示す概念であることを、文献研究を通して確認した。また、これまでの「アクセシビリティ」に関する研究は、物理的アクセシビリティや情報アクセシビリティに焦点をあてたものが中心であり、「静態的」に捉えられていることを確認した。さらに、イギリスで一般市民向けに相談窓口で配布されている資料を確認したところ、マイノリティの人々を含む多様な住民に、アクセシビリティを保障するための工夫が随所に施されていた。これらのことを踏まえて、わが国における地域生活支援や福祉アクセシビリティの実態と課題を検討した。この検討を通して、「福祉アクセシビリティ」概念を捉える際に利用者側からのアクセスだけに目を向けるのではなく、支援者から利用者へ積極的に働きかけていく方向性も不可欠な要件になることを考察した。

(2) 自立支援員および事業管理者への聞き取り調査

自立支援員および事業管理者への聞き取り調査から、次の2点を確認することができた。1点目は、自立支援員の中での役割分担の有効性である。自立支援員は多様な背景を持った人材が担っており、それぞれに個性や得意分野が異なっている。それらの特徴を踏まえて役割分担しながら支援を進めることで、より有効に支援を継続することができる。2点目は、自立支援員へのフォローアップ体制の重要性である。自立支援員を対象とした研修を開催したり、病院の精神保健福祉士と緊密に連携できる体制を作るなど、地域の多様な人材が継続して参加・活動しやすい環境づくりに努めることが、事業の安定的な継続においても有効である。

(3) 相談支援従事者が役割を発揮するための支援体制に関する検討

「福祉アクセシビリティ」の確保において、実際に支援に取り組む支援者の労働環境は重要な要素になることに注目し、相談支援従

事者のワークストレスに関する実態調査の結果を分析した。分析結果にもとづき、相談支援従事者を対象としたメンタルヘルス対策の必要性を提言した。個々の相談支援従事者が担うべき役割の範囲を明確にした上で、業務遂行上必要な知識・技術を習得・向上するための研修や、業務上の不安や困難事例を相談できる窓口を明確にしておくことは、利用者の「福祉アクセシビリティ」を高めることにもつながる。

(4)「福祉アクセシビリティ」に配慮した『地域生活サポートブック』の発行

精神障害者の地域移行支援・地域生活支援に取り組む支援者への聞き取りを行った結果、当事者自身がわからないことが出てきた時に、どこに相談したらいいか、どのように対処したらいいのかを確認できる冊子があれば、福祉アクセシビリティを高める上で有効ではないかと考えた。そこで、平成20年度に、支援者らの協力を得て、地域で生活していく上での具体的な事項（相談支援機関の役割と連絡先のほか、食事、洗たく、金銭管理、服薬など）の手順や留意点をわかりやすくまとめた『地域生活サポートブック』を作成した。冊子を実際に活用した支援者からの感想などを受けて、平成21年度には、再度、支援者らの協力を得て、図や写真を多く取り入れたり、利用者の作品を掲載して親しみやすいものにするなど「アクセスのしやすさ」に配慮した改訂版の作成に取り組んだ。この冊子作成を通して、「アクセシビリティ」を高めるには、「必要な情報が載っている」というだけではなく、「親しみやすさ」や「イメージしやすさ」などへの配慮が重要な要件になることを確認した。

「アクセシビリティ」は、ソーシャルワークの最も中核的な焦点となる人々と環境の間の「接点のあり方」を示す概念である。これまでの「アクセシビリティ」に関する研究は、主に利用者側からのアクセスに焦点があてられ、静態的に捉えられる傾向があった。本研究では、支援者側から利用者へ働きかけていく方向性も含む力動的な概念として「福祉アクセシビリティ」を捉えていく必要性を提示した。また、支援者側から利用者への積極的な働きかけを実現していく上で重要な要件となる支援者の労働環境の検討や、支援ツールとしての冊子づくりにも取り組んだ。これらの取り組みは、今日、大きな課題となっている「ソーシャルワークが展開できるシステムづくり」において、一つの示唆が提供できるものとする。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

- ① 越智あゆみ (2009)「介護支援専門員を対象としたメンタルヘルス対策の必要性」『介護福祉研究』17 (1), 28-31, 査読あり.
- ② 越智あゆみ・金子努 (2008)「広島県における精神障害者退院促進支援事業の現状と課題(第2報) 自立支援員の機能に関する調査研究」『精神保健福祉』39 (3), 203, 査読なし.
- ③ 越智あゆみ・金子努 (2008)「介護保険制度改正後の介護支援専門員の労働環境－バーンアウト調査にもとづく検討－」『総合社会福祉研究』32, 109-119, 査読あり.

〔学会発表〕(計4件)

- ① 細羽竜也・越智あゆみ・横山博司・岩永誠 (2009)「介護支援専門員の職業性ストレスとバーンアウトとの関連」日本健康心理学会第22回大会, 2009年9月7日, 早稲田大学(東京都).
- ② 越智あゆみ・金子努 (2008)「広島県における精神障害者退院促進支援事業の現状と課題(第2報) 自立支援員の機能に関する調査研究」第7回日本精神保健福祉学会, 2008年6月14日, ワークピア横浜(横浜市).
- ④ 越智あゆみ・金子努「介護保険制度改正による労働環境変化と介護支援専門員への影響」第66回日本公衆衛生学会総会, 2007年10月26日, 愛媛県民文化会館(松山市).
- ④ 越智あゆみ・金子努・細羽竜也・横山博司「介護保険制度改正が介護支援専門員の労働環境に与えた影響に関する調査研究」第7回ケアマネジメント広島大会, 2007年8月11日, 広島国際会議場(広島市).

〔図書〕(計3件)

- (1) 越智あゆみ「日本の障害規定をめぐる問題点と課題」金子努・辻井誠人編『精神保健福祉士への道－人権と社会正義の確立を目指して－』久美出版株式会社, 2009年, 169-221頁.
- (2) 越智あゆみ「生活ニーズ調査法」加茂陽・中谷隆編『ヒューマンサービス調査法を学ぶ人のために』世界思想社, 2008年, 289-306頁.
- (3) 横山博司・金子努・細羽竜也・越智あゆみ『介護保険制度改正が介護支援専門員の労働環境に与えた影響に関する調査研究報告書』2007年, 全30頁.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

越智 あゆみ (OCHI AYUMI)